

健康・長寿と子宝のまち

全世代・全員活躍型
「生涯活躍のまち」



伊仙町

伊仙町とは

伊仙町は鹿児島島から南へ約500km離れた奄美群島のほぼ中央に位置する離島・徳之島にあるまちです。

徳之島は世界自然遺産に登録されるほど豊かな自然景観を持つ島で、伊仙町・徳之島町・天城町の3町で構成されています。島の大きさは奄美群島の中では奄美大島に次いで大きいものの、島の周囲は約80kmと、2時間もあれば車で1周することができます。



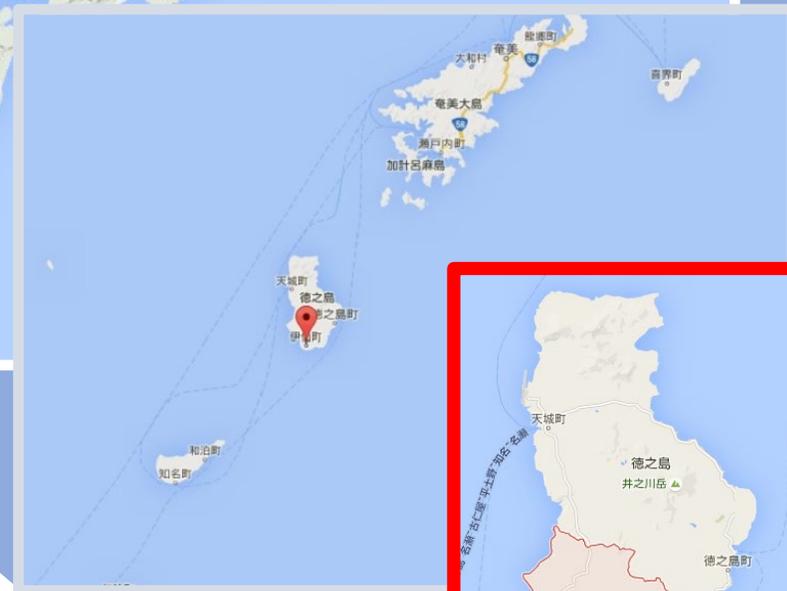
小原海岸



犬田布岬



アマミノクロウサギ



伊仙町とは

人口は、令和6月7月現在で6,163人となっており、気候は亜熱帯気候で、本土と比較すると1年を通じて温暖な気候に恵まれています。

そんな環境に恵まれた本町は、第1次産業が主要産業であり、主にさとうきび生産や畜産、園芸(バレイショ・マンゴー)などの生産が盛んです。

そして伊仙町は長寿世界一としてギネスブックに掲載された2人の出身地としても有名です。さらには全国屈指の合計特殊出生率(※)を誇る「長寿・子宝のまち」としても知られています。人口約6,000人の小さなまちでありながら、元気な高齢者や子どもが多く、地域での結びつきも強い、パワーと活気に満ち溢れたまちです。

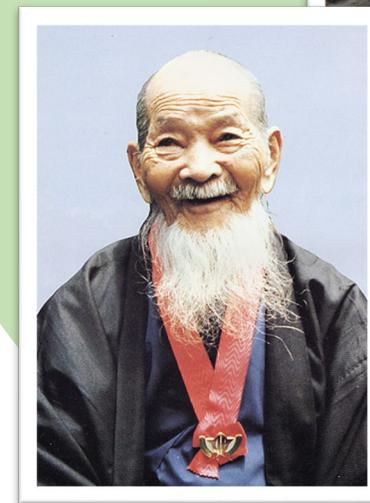
※合計特殊出生率…15～49歳までの女性の年齢別出生率を合計したもので、一人の女性が一生のうちに産む平均子ども数を表す。



バレイショ



サトウキビ



泉 重千代

「生涯活躍のまち」構想について

全世代・全員活躍型「生涯活躍のまち」構想 (平成30年11月策定)

計画期間 平成30年から令和6年3月31日まで

● 構想

障がいの有無、性別、年齢にかかわらず豊かに生きがいを感じながら暮らすことができる地域の存続を目指す。また、都市部の元気な高齢者のみならず、伊仙町に移り住み、多世代にわたる地域住民と交流しながら、生きがいを見出す移住者、Uターン者も受け入れる地域づくりを目指す。

伊仙町の生涯活躍のまち構想「実施体制」

伊仙町の要介護を防ぐ取り組み



委託

委託



- ・生活支援体制整備事業
- ・高齢者元気度アップポイント事業
- ・介護人材確保ポイント事業
- ・地域支え合いグループポイント事業



集落を結ぶ健康増進事業



- ・ゆめサロン(介護予防)
- ・うりたわっきゃ教室(運動機能向上教室)

伊仙町の生涯活躍のまち構想に係る各事業の取組

生活支援体制整備事業

生活支援コーディネーター2名配置し、事業を行っている。健康で長生きするためには、つながりが必要であり、サロン活動などの重要性を学び、意識改革などを働かしている。

例:引きこもりの方への声掛け、各ポイント事業への紹介など、高齢者の意識改革・行動変容を促す。



高齢者元気度アップポイント事業

高齢者の自主的な健康づくりや社会参加活動に対して、商工会商品券に交換できるポイントを付与し、高齢者の健康維持や介護予防への取組を促進する。

例:健康増進活動(介護予防教室、ウォーキンググループ、卓球グループ、各種検診の受診)、社会参加活動(地域パトロール、美化活動)



介護人材確保ポイント事業

介護人材の裾野拡大を推進するため、幅広い世代の方が行う、介護分野の周辺業務などのボランティア活動等に対して、地域商品券等に交換できるポイントを付与。

例:食事の配膳、施設内の清掃、高齢者への声掛け、見守り、ゴミ出し 等



高齢者地域支え合いグループポイント事業

高齢者を中心とした3人以上のグループで活動するポイント制度で、近所の助け合いやボランティア活動などの地域の「互助活動」を促進する事業。

例:互助活動ポイント(見守り、声かけ、ボランティア)、子育て支援ポイント(学童保育の支援、登下校見守り)、子ども食堂支援ポイント、地域でビューポイント 等



集落を結ぶ健康増進事業

ほーらい館の施設利用促進のための送迎バス
みんなが乗れる町内巡回バスや放課後わくわくクラブの送迎



徳之島交流ひろば ほーらい館での教室

うりたわっきゃ教室

ほーらい館に委託して実施している介護予防教室。誰でも利用可能。



ゆめサロン

送迎付きの介護予防教室。参加後は入浴もできる。



ゆめカフェ

認知症の方やその家族とお茶を飲みながら、認知症に関する悩み相談や雑談を行う。



農福連携拠点施設



活性化計画名:伊仙町面縄地区活性化計画

計画年度:令和4年度～令和8年度

計画主体:伊仙町

事業名:農村漁村振興交付金

(農村漁村イノベーション整備事業(定住促進・交流対策型))

事業実施主体:株式会社奄美ブルースカイ農園

農福連携の発展に期待 バレイショ加工施設が完成 伊仙町

2024年06月07日 社会・経済

いいね! 8

シェアする

× ポスト



伊仙町面縄に完成したバレイショ処理加工・集出荷貯蔵施設

【徳之島総局】伊仙町が国の農山漁村振興交付金を活用して同町面縄に整備したバレイショ処理加工・集出荷貯蔵施設の落成式が6日、同施設であった。アルコール、ギャンブル、薬物などの依存症患者を雇用して自立を支援する。落成式には関係者約50人が出席。神事で無事故安全を祈願するとともに、新たな農福連携事業の発展に期待した。

同事業は町が進める面縄地区活性化計画の一環。施設は株式会社奄美ブルー・スカイ農園(榮時弘代表取締役)が運営する。2022年度以降、同施設のほかに農業用器材や拠点施設などを面縄地区に整備した。総事業費2億2114万円のうち半分が国の交付金。今年度は農業用ハウス2棟(1000平方メートル)を整備する。

同施設は鉄骨1階建て(600平方メートル)。内部はバレイショの集出荷貯蔵スペースと処理加工スペースの2区画に分かれる。処理加工されるのは大きさや、傷、病気などの理由で食用に問題はないが出荷できない規格外のバレイショ。洗浄、裁断、熱処理した後、真空パック処理して業務用として出荷する。

今後の方針としては、依存症患者を中心に、徳之島の特産物であるバレイショの加工施設で働いてもらう予定。

現在職員が5人で、利用者は10名となっている。今後もハウス栽培などの施設整備を計画しており、安定した就農ができるように取り組んでいる。

子育て支援について

子育て支援について

徳之島3町別 合計特殊出生率の推移

期 間	伊仙町	全国 順位	天城町	全国 順位	徳之島町	全国 順位
平成 5年～平成 9年	2.49	4	2.52	3	2.44	8
平成10年～平成14年	2.47	4	2.81	2	2.41	7
平成15年～平成19年	2.42	1	2.18	2	2.18	3
平成20年～平成24年	2.81	1	2.12	10	2.18	6
平成25年～平成29年	2.46	2	2.28	6	2.40	3
平成30年～令和4年	1.98	16	2.24	2	2.25	1

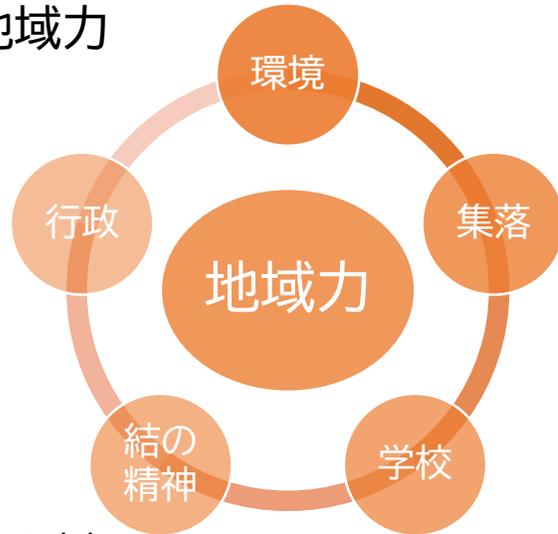
平成24年2月 徳之島空港の愛称を「徳之島子宝空港」に名称変更

公表：厚生労働省「全国市町村別合計特殊出生率(バイズ推計値)(女性1名が生涯に産む子供の数の推計値)」

子育て支援について

高い出生率の要因

- ・「子は宝」という昔からの教え
- ・みんなで見守り子育てを支援
- ・高い地域力



集落での歳祝い

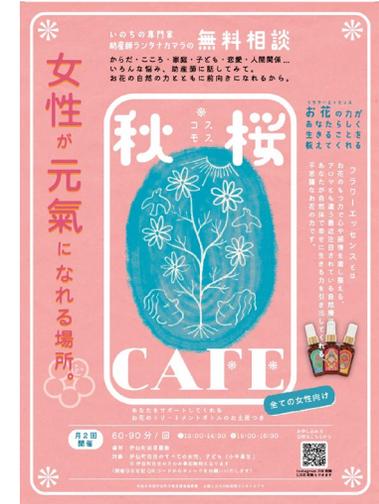
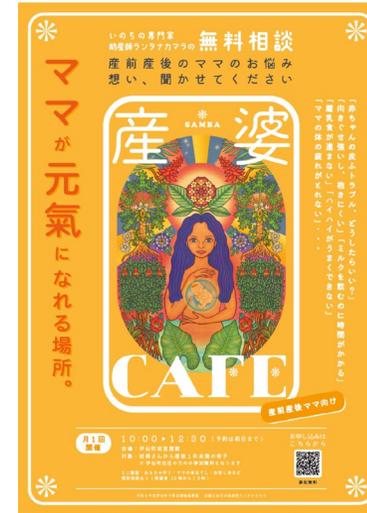


子どもの名づけ祝い



出生率回復へ向けて

- ・リフレッシュして過ごせる場所の提供
- ・気軽に相談できる場所の提供



改修をした古民家を活用して教室を開催



子育て支援について

青少年健全育成にいせんの良さを生かしたプログラムを展開し青少年活動の活性化を図っています。未就学児の支援も行っていますが、小・中・高校生向けの伊仙町独自の取組も充実しています。

水中遺跡調査体験



夜光貝のアクセサリー作り



追い込み漁体験の様子 1



追い込み漁体験の様子 2



いせんチャレンジ教室 2024 プログラム

- 第1回 9/6 30人 釣り作り (小学生以上/30名/ほーらい館)
- 第2回 9/13 30人 追い込み漁 (小学生以上/50名/町内)
- 第3回 9/20 20人 かけっこ塾 (小学生以上/50名/町総合グラウンド)
- 第4回 9/27 20人 夜光貝のアクセサリー作り (小学生以上/50名/町総合体育館)
- 第5回 10/4 20人 鍾乳洞あるき (小学生以上/20名/町内)
- 第6回 10/11 20人 身体の使い方教室 (小学生以上/50名/総合体育館)
- 第7回 10/18 20名/成海 ホエールウォッチング (小学生以上/20名/成海)

徳之島のいっは 秋のプログラム

- おもしろい 第1回 9/6 30人
- おもしろい 第2回 9/13 30人
- おもしろい 第3回 9/20 20人
- おもしろい 第4回 9/27 20人
- おもしろい 第5回 10/4 20人
- おもしろい 第6回 10/11 20人
- おもしろい 第7回 10/18 20人

お問い合わせ: 伊仙町教育委員会 社会教育課 0997-86-4653

子育て支援について

・「生涯活躍のまち」構想では、「小規模校区を残すまちづくり」をキーワードに小学校区や集落など小さなコミュニティ単位での**多世代交流**を促し、地域コミュニティ機能の維持を図っている。



- ・小規模校区を中心に定住促進住宅などの町営住宅を建設
- ・小中高校生向けの学習支援などの充実
- ・郷土学習などについては、町内の高齢者に講師をしてもらい、活躍の場を提供している。



移住定住住宅(小規模地区)

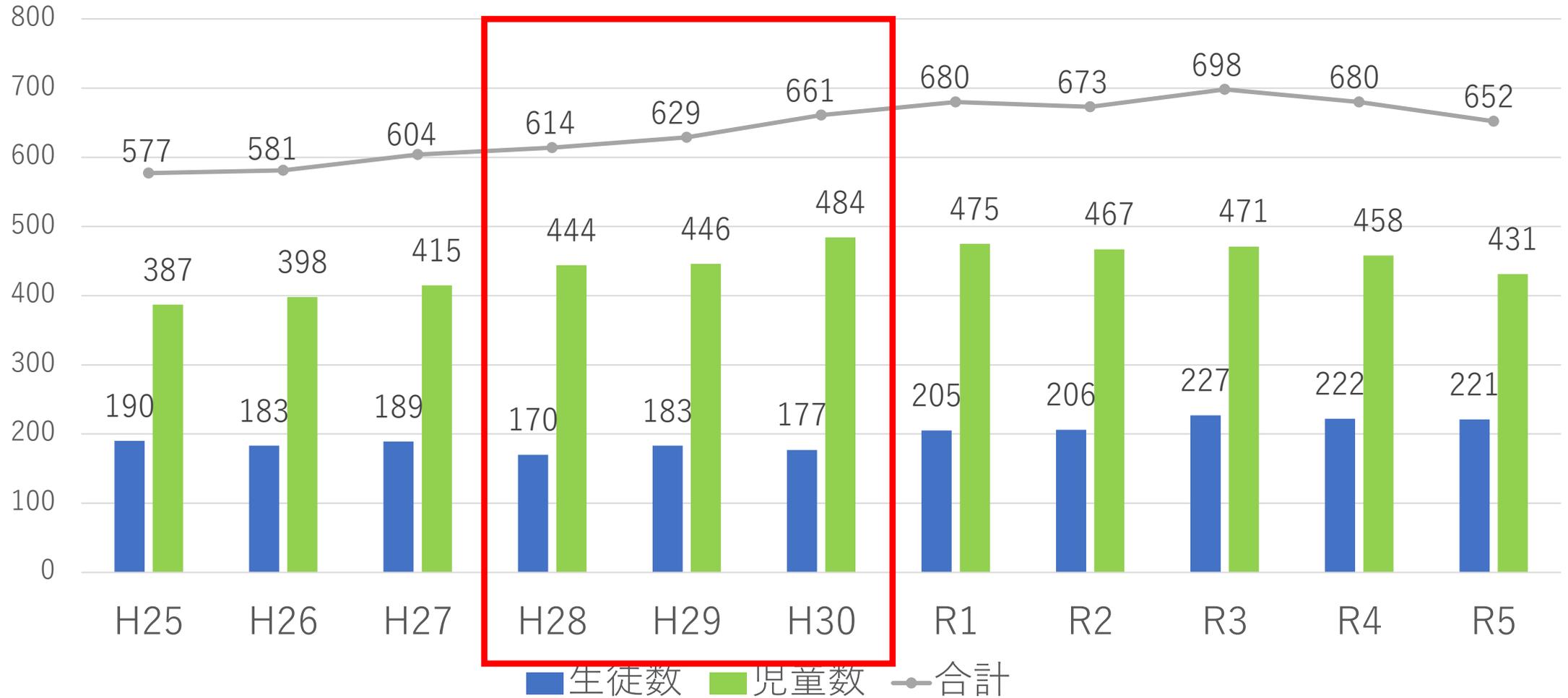


東大ネット(遠隔双方向ライブ授業)

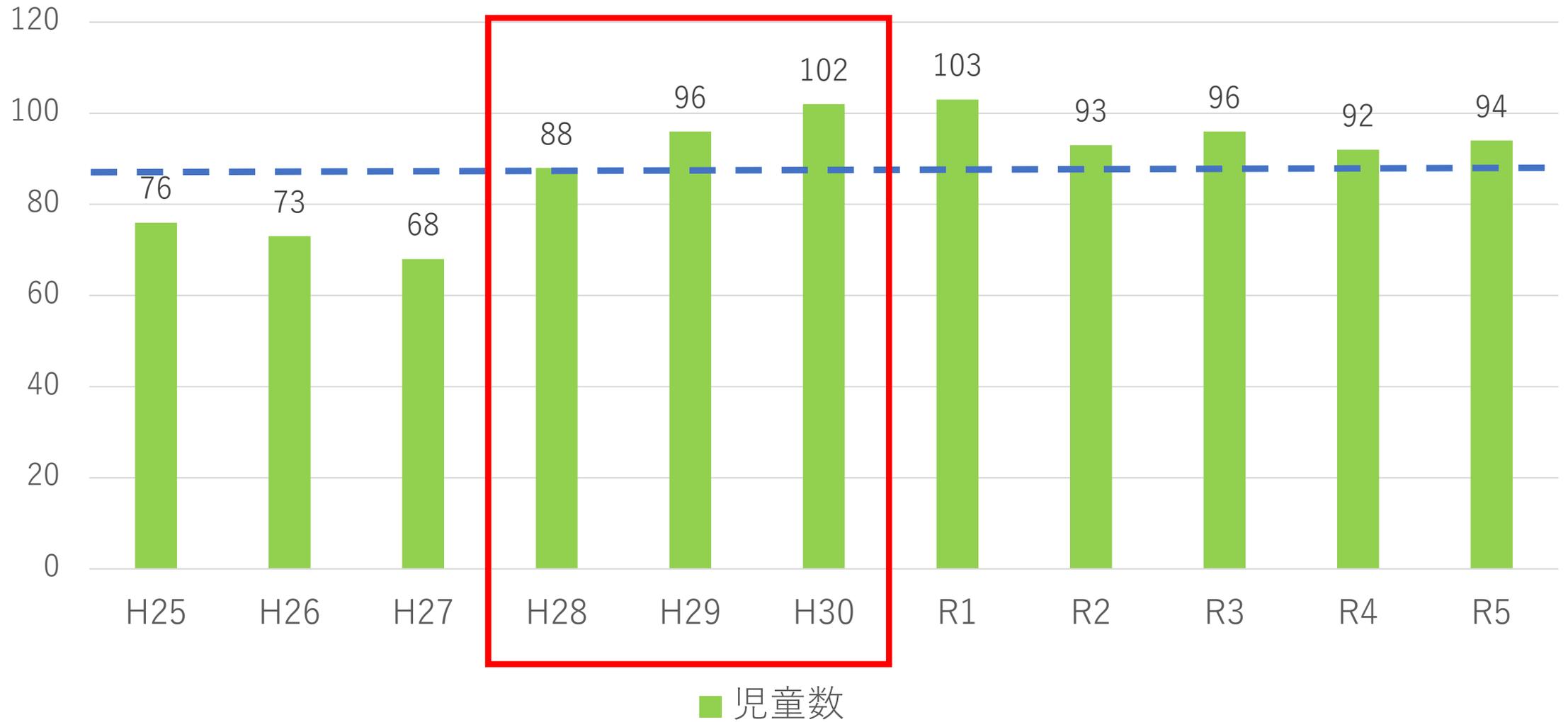


郷土学習(日本復帰学習会)

児童生徒数の推移



児童数の推移(小規模校区)



「生涯活躍のまち」構想策定及び実施に向けた 取組について

伊仙町の生涯活躍のまち構想

「生涯活躍のまち」構想策定のプロセス

- ・H27 伊仙町が元々持っていた「長寿・子宝のまちの地域力」を生かした「地方創生」を推進。
- ・H28 「伊仙町生涯活躍のまちシンポジウム東京」開催
河村健夫衆議院議員・石破地方創生担当大臣も参加。そのほか、東京大学名誉教授養老孟司氏、三菱総合研究所の松田智生氏も講師として参加。
- ・H30 伊仙町の「長寿・子宝のまち」の実態に近い考え方が骨格をなしている「生涯活躍のまち形成事業」の地域再生計画を申請。

「生涯活躍のまち」難しかった点

- ・住民の方たちへ説明する際に、「**地方創生**」や「**生涯活躍のまち**」というフレーズではなかなか取り組みを理解してもらうことが難しかった。。

一般社団法人 長寿子宝社について

◇平成31年3月22日 法人設立

◇令和元年7月1日
伊仙町より委託事業を受託運営開始
スタッフ数(2名行政より出向 2名雇用)

◇令和2年5月1日
伊仙町「地域再生推進法人」指定法人化

◇令和6年6月現在
受託事業数:9事業
スタッフ数:9名雇用

長寿子宝社 4つの活動

あなたらしい生き方を、あなたと。
誰もが地域の中で役割(仕事・活動)があり、互いに支え合い、得意を生かすことが出来る地域へ。
長寿子宝社は、関わる一人一人が自分らしい生き方を実現させるために、一緒に考え取り組みます。

- 1 探す・知る・伝える
集落ごとの特性や資源、課題を調査、今後の地域づくりや事業に生かします。また、他の地域の参考になる事例や助成金情報なども収集していきます。
- 2 考える
集落のことを、集落の人が考え動き出すための対話の場づくりや、課題を解決するための事業を一緒に考えます。
- 3 つくる
こんな活動・イベントを地域でやってみたい、こんな仕事にチャレンジしてみたいなど、皆さんの「やりたい」を作っていきます。
- 4 応援する
生活支援コーディネーターなど、地域での暮らしの困りごとや、楽しみを続けるためのサポートを行っています。

代表挨拶



私たち「長寿子宝社」は、ひと＝住民、まち＝伊仙町、しごと＝民間企業、そして行政を繋ぐお手伝いをしています。
私たちに出来ることは、住民・町・民間が持つ「ニーズ・資源・ツール」と行政の出来る「支援」の間に立ち共に考え、歩み、悩むことです。
その為にも、地域のさまざまな人・物・仕事と協働で新たな仕組みを生み出していかねばなりません。
今ある方法や考え方が古いものになっていく変化の激しい現代社会にて、伊仙町で何か出来ないか生み出せないか、伊仙町を良くしたい、楽しくしたいと考える地域の皆様、共に悩ませて下さい。
誰でも、どんなことでも、まずはお気軽にお声掛けいただければと思います。
代表理事 池田 健博

長寿子宝社 名前の由来



長寿子宝社(ちょうじゅこだからしゃ)は2019年3月に、伊仙町が母体となり設立されました。伊仙町は長寿・子宝日本一として知られていますが、ライフスタイルや価値観の変化が激しい現代社会で新たなニーズや課題に対応して、これからも「健康」で長生きし、子宝に恵まれる「幸せな」まちであり続けることを目指しています。
長寿子宝社はその名の通り、健康長寿・子宝に関する事業を生み出す会社です。公共(行政)と民間(住民・企業)を繋ぎ、住民が地域の資源や課題を知り、スキルや知識を持った地域のあらゆる人々がその能力を生かし、暮らしを良くする事業を創り出すためのプラットフォームです。

長寿子宝社

投稿137件 フォロワー854人 フォロワー中260人

一般社団法人 長寿子宝社
鹿野町長寿子宝社(伊仙町)で公社事業を始めた「まちづくり」に関する業務をさせて頂いております。「ひと・まち・しごと」を繋ぐことを目的としており、住民・民間企業・行政を繋ぐことで伊仙町に思いやりがある「もの・こと・しごと」を共に生み出すことを目標としています。
@ www.chouju-kodakara.jp
フォロワー:yujy6877 kondo.keiichi 88人

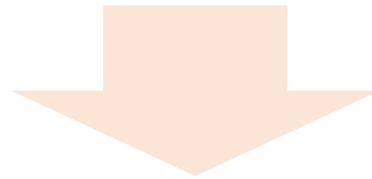


2024.02.09 CHICKENさん♡
2023.12.26 お買い物体験 轟名山公園
2024.02.02 おにたいび♡

一般社団法人 長寿子宝社の設立について

なぜ長寿子宝社が必要と考えたのか

- ①今後の行政主体の事業運営の限界・行政事業の担い手不足
- ②今後の行政による雇用の限界と同一労働同一賃金制度での限界への拍車
- ③伊仙町の特色である、「長寿」「子宝」の文化・歴史が少子高齢化によって今後さらに衰退していく可能性がある



長寿子宝社設立によつての改善可能性

- ①行政では手の届かない事業を業務委託として受けて、「長寿」「子宝」の文化・歴史をつなぐ
- ②地域再生推進法人として、地域住民に近い立場でのコーディネーター役として、コミュニティ再生を狙う

一般社団法人 長寿子宝社の設立について

H25~26 当時の企画課(現未来創生課)にて第3セクターの必要性についての協議が始まる。

H28 地方創生事業にて、「徳之島長寿子宝社事業計画と組織体制検討事業」が福祉部署にて予算化される。委託内容としては、「包括支援センター公社化実現可能性調査」としてスタート。

H31 実際の法人は、設立したが運営を行う職員なし。H30にて計画した当初事務所を構える予定だった場所も変更になる等のアクシデントを経て、7月1日付にて設立作業を担当した町職員の出向という形で、事業スタート。

設立時の苦労した点

- ・あくまで民間法人ということで、**出資金0円で経営スタート**。破棄予定の机イス等を再利用し事務所開設。
- ・行政・公社運営者・関係者等それぞれの理念＝役割＝使い方・業務認識をどう統一化・理解及び明確化するかという課題があった。
- ・資本金がないため、本当の意味での「地域再生推進法人」にはなれていない。

「生涯活躍のまち」の取組について

・(一社)長寿子宝社との役割分担

行政では対応できないきめ細やかなサービスを展開してもらっている。特に、長寿への取り組みや子育て支援については時間や手間がかかるので、そこを対応してもらうのは大きなメリットである。

・地域再生推進法人のメリット

様々な補助事業に申請することができる。しかしながら実績を積み上げてることができず、事業採択には至らなかった。。

・「生涯活躍のまち」のメリット

「生涯活躍のまち」の事業申請にあたり、大きなテーマを打ち出すことで、庁舎内で共有することで他部署と同じ方向性を持って事業展開ができる。